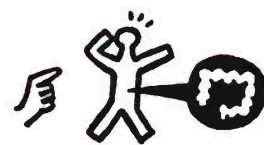


昨年10月、東京都八王子市が、大腸がん検診の医療費削減効果を指標にして導入した「成果報酬型官民連携モデル」の話題をお伝えしました。今回はその続報です。

八王子市の取組みは、前年度に市の大腸がん検診を受診しなかった住民の受診率を向上させることを目的にしています。市と契約した民間のシンクタンクが人工知能(AI)を活用して1200人を抽出し、受診勧奨通知を送付します。通常、自治体を送るリーフレットやハガキなどの勧奨通知の内容は、さまざまな工夫が盛り込まれているとしても、対象者を問わずすべて同じです。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

受診し、10%増が目標だった受診率は18%増を達成しました。自分のリスクをスバリと指摘されると、人は行動を変えることがわかりました。

八王子市の大腸がん検診で、がんが発見される確率は受診者全体の約0.3%ですが、今回の取組みでは約10人からがんが見つかる計算になります。

人が早期がんであると仮定すると、八王子市では、約1800万円の医療費削減効果があつたことになりました。

今回の成果指標は、受診率の10%増を目標上限値として、約240万円が最大支払額となっていました。八王子市ではその全額を支払いましたが、それをはるかに上回る医療費削減効果があつたことになりました。

八王子市では、さらに大腸がんの疑いがあると判定された人に、きちんと精密検査を受けてもらう取組みにもこの成果報酬型官民連携モデルを導入しています。追ってその成果もお伝えできればと思います。

(東京大学病院准教授)

オーダーメイド検診の成果は

受診意欲が低いと思われる「手強い」相手です。そこで、対象者が過去に受診した健康診断の問診項目を分析し、喫煙、飲酒、運動不足、肥満といった大腸がんの発症リスク

を洗い出しました。一人一人のリスクを伝えながら検診の受診を勧める「オーダーメイド型受診勧奨」を実施しました。

その結果、約3200人が

市の分析によると、大腸がん検診を受診し、早期で見つかった人の医療費は、約65万円、検診を受けずに大腸がんと診断された人の医療費は約250万円ですから、この10